

2023 年度 事業報告書

概 況

2023 年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類変更と行動制限の緩和により、インバウンド消費の回復や経済活動の正常化が進展しました。これに伴い企業業績や株価が堅調に推移するなかで、景気は全体として緩やかな回復基調を維持しました。

一方、円安の進行や物価上昇による消費マインドの変化や国際情勢の不安定さが経済の先行きに不透明感をもたらしており、原材料価格等の高止まり、国内外の金融政策の影響等についても引き続き注視が必要な状況となっています。

このような状況のもと、当協会では、ひとりでも多くの方に健康診断を受診して頂けるよう、安全かつ安心な受診環境の確保と健康診断事業の安定的な継続に努めてまいりました。

当協会の 2023 年度売上は、32 億円強で前年比△0.3%とわずかながら減収となりました。3つの診療所事業は、前年比増収で好調でしたが、集団健診事業は、新規取引先の開拓や個人オプション検査の増加等に注力したものの、受診者数や健診項目の減少が進み、診療所の増収を上回る減収となりました。利益面では、売上の減少や新規投資に伴う固定資産償却費の増加を主因として、経常損失 0.3 億円となりました。

なお、純資産合計は前年比減少したものの、当期末残高は 12 億円、自己資本比率は 57%と引き続き高い健全性を維持しております。

当協会は内閣府より認可を受け、2012 年 4 月 1 日に「一般財団法人京浜保健衛生協会」となり、12 年が経過しました。新たな公益法人の役割の中で「公益目的支出計画」の達成と、行政をはじめ、関係諸団体と連携を密にし、当協会の定款に定める健康診断並びに調査研究指導・啓発広報等を通じ、国民の生活習慣向上のために健康診断事業を適切に推進していきます。引き続き関係各位のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

I. 集団健康診断事業・診療所事業

1. 集団健診事業

1) 受診者数・売上状況

- ・リモートワークの定着で、自宅近くの医療機関を利用する方が増え、受診者数は前年度比△4千人強減少し、約37万人となりました。
- ・売上は約20億円で、前年度比減収となりましたが、4年連続20億円を上回りました。

2) 主な動向

・読影システムの導入

2023年4月に心電図・眼底機器の読影システムを導入しました。これにより遠隔読影が可能となったことで、物理的なデータ授受リスクの軽減や、所見が手書きから画面入力になることによるヒューマンエラーの排除等により、読影精度の向上が図られました。

・胃胸部併用X線デジタル検診車の導入

公益財団法人JKAの補助を受け、胃胸部併用X線デジタル検診車を2023年8月に導入しました。最新のフラットパネル式を採用し、撮影画像の情報量の増加により精度の高い健診が可能となりました。また、放射線の被ばくの低減も図られ、より安心・安全な受診環境が整備されました。

前年度に続き、2年連続で新型のレントゲン車を導入し、老朽車両の更新・整備を行なったことで、より安心安全で快適な受診環境を安定的に提供できるようになりました。

2. 診療所事業

1) 受診者数・売上状況

- ・本部診療所は、受診者数は約2.6千人で、前年度比若干減少したものの、売上は5億円弱で過去最高を更新しました。

- ・特定企業の方を健診対象とする2つの診療所（健診センター、渋谷診療所）も受診者数は前年度比減少となりましたが、売上は、健診センターはコロナ禍で休止していた結果返しの再開、渋谷診療所は定期健康診断増加により、共に前年度比増収となりました。

2) 主な動向

- ・予約システムの整備

受診者が便利に予約できるよう2023年12月より団体事業所様向けのWEB予約を開始しました。2024年度には、全ての受診者がWEBで予約ができる環境を構築する計画です。

- ・通過管理システムの導入

受診者が円滑に検査できるよう通過管理システムを新たに導入し、試験運用を重ねました。2024年4月に本格稼働する予定です。

Ⅱ.調査研究事業

1.調査事業

- ・がん検診から早期発見、早期治療につなげ、ひいてはがんの死亡率減少に寄与することを目的に、がん検診の追跡調査を実施しています。
- ・2022年度のがん検診（胃・胸・大腸・子宮・乳房）受診者約34万人（男66%、女34%）のうち、要精密検査となった方から約4百人に追跡調査を行いました。

2.健康支援事業

- ・健康診断に付随して、電話による相談も含め、それぞれ必要に応じた場面で健康相談を行っています。
- ・2023年度は、8百人弱の面接による健康相談を行いました。

3.特定保健指導

- ・生活習慣改善で大事なことは「自己効力感」と言われています。当協会のプログラムは、対象者の個別性を踏まえ、自己効力感を高め、メタボ脱却に向け3か月間の支援を行なっています。
- ・2023年度は、積極的支援、動機付け支援、動機付け支援相当、合わせて2百人強の方に特定保健指導を実施しました。

Ⅲ.公益事業

当協会は、(1)幼稚園事業、(2)JMS事業、(3)講演会事業、(4)広報事業、の4つを柱として、公益事業に取り組んでいます。

1.幼稚園事業

- ・子育てで忙しく日頃健診を受ける機会が少ない幼稚園児の母親および教職員を対象に、血液検査、骨量測定、婦人科検診の場を提供しています。
- ・2023年度は、実施時期を見直しした関係で、施設型(診療所)での健診を年度内に2回開催し、約4百人の方が受診されました。

2.JMS事業

- ・日本乳がんピンクリボン運動が2009年から「10月第3日曜日」を「ジャパン・マンモ・サンデー」として全国の医療機関に賛同を呼びかけ、当協会も趣旨に賛同し実施しています。
- ・2023年度は、10月15日に開催し、1百人弱の方が受診されました。

3.講演会事業

- ・健康づくりや疾病の予防等、保健衛生に関する知識の普及と啓蒙を目的に、企業の健康管理者や地域住民に広く門戸を開放して、学識著名人による健康管理講演会を毎年開催しています。2023年度は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、4年ぶりの開催予定でし

たが、開催直前の新型コロナ・インフルエンザの罹患者増加により、開催中止となりました。

4.広報事業

・広報誌「ほほえみらいふ」を次の通り発行しました。

2023年7月3日 82号 2,000部。

2024年1月5日 83号 2,000部。

発送先：官公庁、事業所、地区組織、全衛連加盟機関等

以 上